

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 広島県立御調高等学校
種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()
所在地 〒 722 - 0341
広島県尾道市御調町神 204-2
E-mail mitsugi-h@hiroshima-c.ed.jp
Website <http://www.mitsugi-h.hiroshima-c.ed.jp/>
児童生徒数：男子 109 名 女子 95 名 合計 204 名
児童・生徒の年齢 15 歳～ 18 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

当校のビジョンは「物事をグローバルな視野から自分自身の問題として捉え、日本人としてのアイデンティティを持って、地域や広島県、国際社会で主体的に生きようとする生徒を育成する。」ことである。

ESDは、本校の学校教育を通して生徒に身に付けさせたい資質・能力の育成につながると捉え、ESDの実践を通して、7つの資質・能力の育成を目標とした。

具体的には、「総合的な学習の時間」、「総合的な学習の時間と各教科科目の横断的な学び」、「国際交流」を柱に、①総合的な学習の時間における地域活性化に係わる取組、②総合的な学習の時間（地域活性化）と各教科をつなぐ取組、③中華民国新北市立秀峰高級中学との姉妹校交流に係わる国際教育活動を行った。

①総合的な学習の時間における地域活性化に係わる取組

「地域の課題を解決すること」をテーマに、年間を通じ、探究的な学習活動を行っている。生徒が自ら課題を設定することを特に重視し、生徒にどのような課題があるのかを明確にさせ、その課題に対する探究活動が、具体的で実現可能な活性化策を提案するに値するレベルとなるよう、質の向上を追究させた。また、地域活性化に先進的に取り組む外部者との関わりを増やすことで、考案した活性化策が地域にとって本当に価値あるものかどうかよく吟味させ、生徒自身に活動の価値を認識させた。

総合的な学習の時間で考えた解決策を、地元の道の駅、町内の福祉施設や幼稚園、尾道市と連携して実践している。

②総合的な学習の時間と各教科科目の横断的な学び

教科学習と総合的な学習の時間、地域での実践をつなげていくために、教科学習でESDの視点に立った学習指導で重視する7つの能力・態度の育成を目標とした。各教科とESD指導内容とのつながりでは、教科固有の目標を達成することに主眼を置いてESDを展開するために、教科とESD指導内容とのつながりについて、それぞれの教科が、どのようなレベルでの内容を扱うかを年間指導計画に整理した。

③中華民国新北市立秀峰高級中学との姉妹校交流に係わる国際教育活動

本校は、平成24年12月に2年生46名が修学旅行で訪問秀峰高級中学を訪問した際に姉妹校提携を締結式を行った。その後、両校生徒の短期留学や本校生徒の台湾修学旅行時の姉妹校での交流を継続してきた。本年度は6月に再調印式を行い、両校の交流がさらに発展する節目の年となった。



①道の駅での「ありがとうデー」での実践



②総合的な学習の時間と各教科科目の横断的な学び



③姉妹校との協定更新締結式

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input checked="" type="checkbox"/> 17. その他(地域活性化, 総合的な学習的な学習の時間と教科科目の横断的な学びの実践)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- ・ ESD 国連 世界の未来を変えるための 17 の目標 2030 年までのゴール（みくに出版）
- ・「高等学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」（文部科学省）
- ・「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 高等学校編」
- ・総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料 高等学校（国立教育政策研究所教育課程研究センター）
- ・「ESDの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組み」（国立教育政策研究所 共育課程研究センター）
- ・「持続可能な開発のための教育（ESD）」はこれからの世界の合い言葉 みんなで取り組むESD！ー持続可能な社会づくりを目指した取組に向けてー（国立教育政策研究所教育課程研究センター）
- ・ESD（持続可能な開発のための教育）推進の手引き（文部科学省国際統括官付 日本ユネスコ国内委員会）
- ・プロジェクト学習の基本と手法ー課題解決力と論理的思考力が身につく（教育出版）
- ・思考を深める探究学習：アクティブ・ラーニングの視点で活用する学校図書館（全国学校図書館協議会）
- ・学びの技 14 歳からの探究、論文、プレゼンテーション（玉川大学出版部）
- ・未来をつくる教育ESDのすすめー持続可能な未来を構築するために日本標準ブックレット（日本標準）
- ・「探究」を探究するー本気で取り組む高校の探究活動（学事出版）
- ・「コンピテンシー・ベース」を超える授業づくり 人格形成を見ずえた能力育成をめざして（図書文化社）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールが推進するESDの実践テーマを教科学習、総合的な学習の時間、地域での実践の3つを柱とした御調地域活性化プランの取組と位置付けている。

特に、本校2年生の総合的な学習の時間で行っている「御調地域活性化プラン」を軸として、教科学習、総合的な学習の時間、地域での実践につながりを持たせて、生徒に持続可能な社会の形成者として必要な能力・態度を育成している。

総合的な学習の時間で御調地域の持続発展を考えさせる「御調地域活性化プラン」の取組を行っている。地域の魅力を「御調の5宝」として生徒が設定し、それぞれについて御調地域活性化のための課題を見出し、その課題解決に向けた適切な方策を生徒自身に取捨選択させ、解決策を創造させる。その際、地域の方々とも連携しながら、解決策の改善等を図っている。活動も活発化してきて、今年は尾道市、尾道市御調支所とも連携して、活動を行っている。

総合的な学習の時間で創造した解決策を、地元の道の駅等近隣の施設を活用させていただきながら実践させている。地域の人々と協力して、当事者意識を持って取り組ませた結果、新たな課題を発見し、総合的な学習の時間での探究活動へと更につなげている。

教科学習では、総合的な学習の時間の内容と関連付けて、「御調の5宝」や地域の実態分析についての理解を深めることを共通の題材として、ESDの視点を踏まえた教科の授業をすべての教員が年に1回以上は行っている。各教科の特性に合わせて、それぞれの教科がどのようにESDと関わっていくのかについて明確にする。また、教科固有の目標を達成しつつ題材の深い理解につながる教科指導を行っている。また、地域での実践でも教科学習の知識が活用される場面があることで、教科学習に対する動機付けにもなっている。

このように、教科学習、総合的な学習の時間、地域での実践の3つを柱とし、それぞれが相互に関連し合ったESDを実践し、生徒に身に付けさせたい能力・態度の育成を進めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項1-4に対応

本活動の校内推進体制は次のとおりである。

- ・管理職…ミッション・ビジョンの策定、本校の授業づくりの年間計画の策定
 - ・教務部…ESDの視点を踏まえた授業づくりのための方策の設定(本校のESDの体制づくり、ESD年間指導計画の進捗状況管理、目指す授業像の設定、公開研究授業・授業研究旬間の開催等)
 - ・教科主任会議(校長、教頭、教務主任、各教科主任)…各教科・科目でのESDの視点を踏まえた指導の目的の周知徹底、ESD年間指導計画の検討、指導内容や指導方法の検討、他の教科・科目とのつながりの検討
 - ・各教科…各教科でESD年間指導計画の作成、各教科での指導内容及び指導方法の検討
 - ・総合的な学習の時間担当者会…総合的な学習の時間における指導計画(探究活動)の作成、教科指導と総合的な学習の時間のつながりを意識した指導、地域との連携、地域の専門家との連携、大学教授や先進校教員との連携
 - ・各教員…ESD年間指導計画に沿った指導の実践
- 総合的な学習の時間では、生徒を「御調の5宝」に相当するように5つのグループに分け、それぞれのグループを2名の教員が担当するティームティーチングの形態を取っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

評価の現状は、内部については、「総合的な学習の時間」においては毎時間ワークシートや評価指標（ESDにおける7つ能力・態度）を定めている。自己評価（毎時間の研究記録用紙、評価基準に則った年間評価グラフ）を行ったものと生徒の取組状況や成果物、変容に基づいて、教員が学期末や年度末に評価を行う。活動や自分の取組を振り返ることができるようにポートフォリオを作成させている。授業評価アンケートや、学校評価アンケートで育成したい資質・能力が育成されているかを測る項目を設け、調査している。

成果について

- ・各教科指導において生徒に身に付けさせたい力を意識し、「総合的な学習の時間」を連動させながら発問・相互作用・内省の3つの柱とESDの視点を踏まえた授業づくりが定着した。学校評価生徒アンケートの「授業を通して、物事を様々な角度から考えようとするようになった」という質問項目で、「あてはまる」と肯定的に答えた生徒の割合が上昇している。各教科・科目における学習において、生徒に身に付けさせたい資質・能力を教員が明確にして授業を行った結果である。平成29年度第1回アンケートでは65.8%であったが、第2回では66.1%と0.3%増加した。
- ・第2学年の「総合的な学習の時間」において、探究のサイクルに則り、単元を構造化した上で指導案を作成した。地域活性化の先進的な取組を行っている油木高等学校の生徒・教員を講師として招聘し講話を聴き、質疑応答を行った。質疑応答では、「油木高校にとって地域活性化とは何か。」「企業とはどのような方法で連携したのか。」など、取組を実現するための具体的方策を探る発問を生徒自らが創り出す変容が見られた。

課題について

- ・生徒に身に付けさせたい資質・能力の育成について仮説を立てているが、それを評価するための明確で汎用性の高い評価方法をさらに研究することが必要である。また、「探究の方法」（研究の進め方）について理解させる教育内容の創造が必要である。
- ・総合的な学習の時間に関わる教員数が多く、連携が不十分な状況にあるため、連絡・調整を綿密に行い、より教育効果の高い連携の仕組みを構築することが課題である。

※チェック事項1-5に対応

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項2-2に対応

「総合的な学習の時間」を学ぶ第2学年の生徒会に属する生徒が、難病ALSと闘う長岡教頭先生に平成29年度卒業証書授与式に、「オリヒメ」（遠隔操作ができる分身ロボット）を使用して出席してもらいたいという願いを強く訴えた。生徒は、この課題解決のために、「オリヒメ」の開発者である吉藤健太郎氏や県教育委員会に対して協力を要請した。これらの方々のご支援により、休職中の教頭先生に「オリヒメ」で卒業式に出席して頂くことが実現した。これは、生徒自らが課題を設定し、どうしたら解決できるか、ALSやオリィ研究所についての情報を収集・分析し、課題解決策の創造を生徒自らが行う力が身に付いている証拠である。このことは全国ニュースや地方新聞でも取り上げられた。

第2学年の「総合的な学習の時間」が終了しても主体的に活動する生徒がでてきた。生徒は、来年度の文化祭や体育祭へ休職中の教頭先生に車いすでの参加を願っている。その際、校舎内のスロープがない箇所にスロープを設置するという課題を設定し、どうすれば実現するかを考え、解決策を創造している最中である。具体的には、広島県教育委員会施設課に対しスロープ設置の要望を行うための要望書を作成する活動を生徒自らが継続している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

※チェック事項2-3に対応

地域の人材（道の駅クロスロードみつぎ、尾道熱帯研究センター、尾道柿園、有限会社立花テキスタイル、尾道市社会福祉協議会、尾道市御調町商工会青年部、尾道市文化財保護委員、元鳴門教育大学学長等）、オリイ研究所吉藤健太郎氏、株式会社S-Produce、下宮勇生氏を講師として招聘した。

また、広島大学准教授を年間を通じて指導者として招聘し、「総合的な学習の時間」で講話を行っていただいた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項2-4に対応

特に行っていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

総合的な学習の時間では、地域の課題を発見し、その解決策を創造し、実践する活動を通して、ESDで育みたい7つの資質・能力を身に付けさせることを目的としている。7つの資質・能力を意識した上で授業に取り組むことで、生徒が以前よりも地域の課題の解決に向けて意欲的に取り組み、その過程でグループ内での協議、他の関係機関との協力などを行い、物事を多面的・総合的に考え、これまでの自分たちの取組を批判的に考察できる力が身に付いた生徒が多くなっていると感じられた。

また、「総合的な学習の時間」が終了しても主体的に活動する生徒や、学校内だけの連携で実現不可能だと判断すると、自分たちで課題解決のための連携先を模索する変容見られた。

学校評価生徒アンケートの「新しいアイデアや考え方を出し、自分でそれを実行したことがある」という質問項目で、「あてはまる」と肯定的に答えた生徒は全校生徒の半数以上であり、生徒自身がイノベーションを起こすために行動したと認識できている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成29年度と同様に、総合的な学習の時間における地域活性化に係わる取組、総合的な学習の時間と各教科科目の横断的な学び、中華民国新北市立秀峰高級中学との姉妹校交流に係わる国際教育活動の3点を中心に平成30年度の活動を計画している。

また、国内外のユネスコスクールとの交流やネットワークの形成についても、情報の発信や相互交流ができるよう、他校の取組を参考にしながら推進していけるよう改善する。